

湧水と歴史のまち 東久留米

17N1021 奥脇 勝彦

1. 東久留米市について

- ・面積 12.88km²
- ・総人口 116,429人（推計人口・2020年6月1日）
- ・人口密度 9,040人/km²



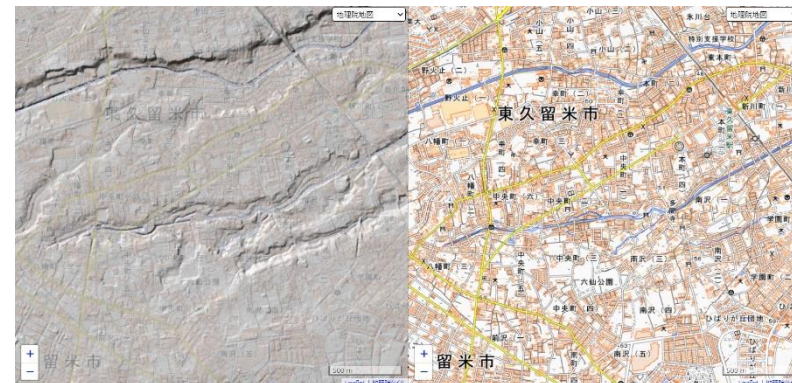
2. 水が豊富？東久留米市

東久留米はゆるキャラでも表現されているように水源に比較的に恵まれた土地である。

だがそれは地質によるものではない。

右図が東久留米の起伏を表したものである。

勾配の急な変化が地下水脈をせき止められる形となり湧水群が成立したためである。



3. 湧水とくらし

湧水群によって武蔵野台地上に樹林が広がり、植物とそれらを食べている動物などの生物資源に恵まれた環境を形成することとなった。

結果的に採取狩猟生活が中心であった旧石器時代から縄文時代のくらしに適していたため多くの遺跡が残った。



左図は、東久留米市立下里中学校内にある**新山遺跡**

縄文時代中期（約 4500 年前）の大きな柄鏡形住居跡

時代が代わり稲作文化が主流になると細い川と低い台地で成り立つ東久留米は、米作りに適した土地ではなかったため縄文時代晩期の遺物や弥生時代の遺跡はあまり確認できていない。



左図は、**下里本邑遺跡**

旧石器時代から奈良・平安時代までの長い歴史をもつ遺跡

時代が飛んで鎌倉時代～室町時代前期になると鎌倉武士の本貫地とその所領となったため、東久留米にも多くの人が移り住んできたため供養塔の一種である板碑が多く建てられた。



左図は天正十一年板碑(1583)

もと観音寺境内とされている幸町1丁目から出土。

記年銘が彫られている多摩地域で最後に作られた板碑とされている。

1936年(昭和11年)自由学園の運動場拡張工事中に縄文時代中期の遺跡が発見されるなど、戦前期から縄文時代以前の遺跡が発見されていた。また1950年代後半以降の高度経済成長期から1970年代後半の急速な都市化の進展に伴う発掘調査の結果、多くの遺跡が確認されているその数は破片を含め107基確認されており、最古のものは1279年(弘安9年)のものである。

4. 東久留米の建築物

鎌倉幕府五代執権北条時頼の治世時、曹洞宗の開祖である道元を鎌倉に招き曹洞宗の教えを受けたことをきっかけに曹洞宗との繋がりができた。

その後の 1444 年(文安元年)八王子城主北条安祝が開基となって曹洞宗寺院の浄牧院が東久留米市内に建立されることとなった。

境内の建造物を改修し、昭和 35 年当時の東久留米町最初の私立保育所として久留米みのり保育園が建てられた。



5. 最後に

幼少期に見に行った遺跡が当時はどういうものなのか全くわからないまま見ていたが、こうして調べてみると、人の生活様式が色濃く残ったものであることがよく分かった。

また、その時々文化によって人はそれに適した場所へと集まっていくということが分かった。現在の東久留米市はあまり活気のあるまちだとはあまり思わないが、何らかの強みを見出し、それを押し出すことができればより活気のあるまちになるのではないかと思ったので、その強みを考えられたらもっと面白くなるのではないかと思ったので、この時勢が改善されたら新しい発見ができるようにまちを見に行きたいと思った。